

## 小学校1年 「すたあと」を活用したスタートカリキュラムの実践

川崎市立新城小学校 北林 新菜 片岡 義順

### 【実践の概要】

感染症拡大防止による臨時休業のため入学が2か月遅くなった新1年生が、これまでの学びや経験を生かして学校生活を送れることを期待して、継続的に「すたあと」を活用した実践を行った。6月当初から番組活用をしたことで、児童の生活や学習経験と番組の内容を組み合わせた活動を行うことができた。一連の活動の中で経験やスキルの大きな個人差が、より充実した活動を創造したり展開したりすることに繋がっていた。特に教科に組み入れた番組活用で、その効果を感じることができた。

### 【取組の具体】

#### ○算数×すたあと「がっこうでかずをさがそう」

(6月実践) <量への関心・感覚>

- 番組視聴 ・ 1年2組の金魚は2匹じゃないよ。
- 教室内でかずさがしをする。
  - ・お道具箱が2こ・金魚が6匹・黄色のチョークは3こだよ
  - ・お誕生日表に、数字がいっぱいある・チョークが8こだよ
- 見つけたかずを共有しながら、助数詞を確認する。
  - ・「ひとり、ふたり」だけど、3は「にん」だよ・お花は、「ぼん」と「ほん」
  - ・チョークは何と数えるのかな
- 算数教科書を使って、いろいろなものの数え方を唱える



#### ○生活×すたあと「じこしょうかいげえむ」

(6月実践) <社会生活との関わり>

- 番組視聴「お友達ともっと仲良しになれるゲームがあるよ」
- ゲームの方法を考える。
  - ・最初に挨拶をする ・よろしくねっていう
  - ・好きな食べ物を言う ・音楽をかけてやりたいな
  - ・音楽が止まったら止まる遊びみたいにやりたいな
  - ・探検バッグを使いたいよ
- 学級で考えた方法に沿って、ゲームを行う。  
(4. 集めたカードを台紙に張って、飾りつけをする。)

#### ○国語×すたあと「3つのひんとでわかるかな？」

(7月実践) <言葉による伝え合い>

- 番組視聴 ・ 答えはバイオリンかな、木琴かな
- 一人ずつクイズをつくる。
  - ・まだみんなに教えていない好きなものにしよう
- クイズ大会をする。
  - ・なわとびは何色ですか ・何味のアイスが好きですか
  - ・どうして、なしじゃなくてりんごが好きなのですか
  - ・〇〇さんと同じだね ・チアって何?



#### ○音楽×すたあと「おとをあつめよう」

(8月実践) <豊かな感性と表現>

- 目をとじて身のまわりの音に耳を傾ける。
  - ・ゴーッと音がきこえた ・下から音がなっている感じがする
  - ・カタカタコン (図工室のドアが閉まる音)
- 番組視聴「新城小学校の中でも、音さがしができるかな」
  - ・4年生のところについて探したいな
  - ・1階のどこから音が鳴っているのか見に行きたい
  - ・静かに行かないと、音がきこえないと思う
- 校内を歩き回って、音さがしに行く
- 見つけた音を共有する。
  - ・ゴーッという音は、給食室から聞こえたよ
  - ・2年生がトライアングルを使っていて、チリチリって音がしたよ・チョークの音が、カカカカだった

### 【活用番組と実践者による番組分析】

#### 活用番組「すたあと」

- 番組からの問いかけやクイズがあり、授業に参加している感覚で視聴できる。
- 5分間の短い番組であるため、入学当初の児童にとっても意欲や集中力を維持したまま活動に取り組むことができる。
- 番組にでてくるワークシートと同じものを使うことで、学習の方法を理解しやすい。
- 教科の学びに繋がるテーマであるため、教科学習として番組を活用することもできる。

### 【本実践における工夫点】

#### 学びの土台を作る

番組視聴をきっかけにして、身の回りを題材にした学習課題を設定した。入学前のスキルや経験に差がある児童全員が、同じ学びの土台にのれるようにした。

#### 学び方を考える

番組視聴後に「どうやってやる？」と問いかけ、主体的に考える経験をさせることを大切にした。活動の手順を整理することに加えて、児童の願いや思いを実現させたり、創意工夫の視点をもって学習に取り組めたりするようにした。

#### 安心して視聴できる環境作り

番組は、学習に対する問いかけをするだけでなく、笑わせたり、楽しい雰囲気を高めたりしようとしている。そうした気持ちを安心して表出できることが、学ぶ意欲に繋がると考え、教師も児童と共に同じ目線で番組を視聴することを心がけた。

### 【本実践の成果○と課題●】

- 「自分たちで考えて学習した」という共通経験を得ることができた。この経験が、「こんな風にやりたい」「この順番で勉強したらどうかな」等、その後の学習や生活において主体的に取り組む力を引き出していた。
- 学びの土台があることで安心して学習に取り組むことができ、児童同士が経験やスキルの差を前向きに捉えていた。それを「みんなで勉強する楽しさ」として感じるようになっていた。
- 担任による日々の実践であるため、客観的な裏付けや分析があると良い。